



- 1.患者さんの権利と意思を尊重します。
- 2.地域と連携し、適切ながん医療を提供します。
- 3.教育と研修を充実し、優れた医療人を育成します。

群馬県立がんセンターだより

第59号

発行：令和7年11月

発行元：群馬県立がんセンター

GUNMA PREFECTURAL CANCER CENTER NEWS



看護部長
堀越 真奈美

就任のご挨拶

2025年4月より、看護部長を拝命いたしました堀越と申します。

私は、太田市内で生まれ育ち、看護学校時代から、がん看護を志し、念願のがんセンターに就職しました。就職当時の病院は昔ながらのノスタルジックな趣があり、今の開放的で明るい雰囲気とはだいぶ違いました。当時、同期の新規入職者は12名程度おりましたが、新人は私ただ一人で、周りの同期がとても大人に見えたことを覚えています。外科病棟を経て、消化器内科・血液内科病棟配属となり、化学療法中の悪心で辛い思いをしている患者さんを担当しました。当時、抗がん薬による悪心は、効果的な症状緩和の薬剤がなく、コントロールに難渋していました。患者さんの辛さを軽減して治療を継続して欲しい、抗がん薬について勉強したいという思いから、がん化学療法看護認定看護師の道を歩み始めました。そして、日本初及び県内初のがん化学療法認定看護師となり、多くの施設で講義や勉強会を行い、学会に参加し、横のネットワークを拡げて人脈を築いてきました。認定看護師を取得してから、副看護師長9年、看護師長5年、副看護部長2年を務めて参りました。多くの人達に支えられて、がんセンターとともに成長して来られたことを誇りに思っています。微力ではありますが、誠心誠意、努めて参りたいと思っております。

さて、2040年問題をご存じでしょうか。2040年問題を前に、医療は「治す医療」から「治し支える医療」への転換期を迎えております。「治し支える医療」は、病気を治すだけでなく、患者さんの生活の質の向上と継続的な支援を行うことです。また、医療の現場は日々進化しており、AIやIoT技術などのテクノロジーの活用がますます重要になってきます。電子カルテの標準化や医療情報の共有等、医療DX（デジタルトランスフォーメーション）が進められており、がんセンターでも、テクノロジーと人の力を融合させる取り組みが始まっています。医療DXが進化しても、看護は人と人との繋がりの中で育まれるものです。

看護部の理念は、「私たちは、病院の理念と基本方針に基づき、思いやりの心で看護サービスを提供します」です。患者さんひとり一人の意思を尊重し、がん看護の専門的な知識や技術のもと、思いやりの心を持って、その人らしさを大切にしたい看護を目指しています。患者さんご家族が、いつでも安全で安心な医療が受けられるよう、看護職員一同、日々邁進して参ります。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

部署
紹介

技術部 臨床工学室

技術部 臨床工学室は2009年4月から臨床工学技士1名で開設されました。現在2名の臨床工学技士が所属しており、専門知識・技術を生かし日々活動しています。

臨床工学技士とは

1987年に制定された「臨床工学技士法」に基づく医学・工学の両面の知識を兼ね備えた国家資格です。「医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う事を業とする」医療職です。

臨床工学技士の役割は、「医療機器の操作・管理・提供」です。医師・他スタッフとスムーズに連携し業務を行います。また、医療機器の点検・整備を行い医療現場における適切な活用に努めています。



▲整備された医療機器

～手術支援ロボット（ダヴィンチ）手術と臨床工学技士～

2019年8月に開始され2024年7月には2台体制となり、消化器外科・泌尿器科・呼吸器外科で手術が行われています。「常勤の臨床工学技士が1名以上配置されていること」が施設基準の一部となっているため、臨床工学技士は導入から参加し現在に至ります。

手術支援ロボット（ダヴィンチ）手術を担当する臨床工学技士の業務

- 準備 ダヴィンチ装置・麻酔器・電気メス・気腹装置・モニター等の準備および設定
- 手術 動作点検・ドレーピング補助・ドッキング補助・各装置の術中監視・トラブル対応
- 管理 ダヴィンチ本体・インストゥルメントの記録管理・定期点検
- 教育 ダヴィンチ装置の基本操作講習会の実施



▲ダヴィンチ装置と他の医療機器

手術支援ロボット（ダヴィンチ）手術の手術件数は増加しています。臨床工学技士はこれまで以上に安全に配慮し、最善の手術環境を構築していきます。

医療技術が発達し、医療機器の高度化・複雑化が進んでいます。臨床工学技士は、現在の医療に不可欠な医療機器を扱うスペシャリストです。安全確保と有効性維持の担い手としてチーム医療に貢献しています。

クリーン作戦に参加して

地区のクリーン作戦が、春季は5月25日（日）、秋季は9月28日（日）に行われ、がんセンターから、合計49名が参加しました。軍手をはめ、箒や鎌、ゴミ袋を持ち、完璧な清掃態勢を整え、病院の外周、院内敷地内と分かれて清掃しました。地域の方々の熱心さに負けないような熱意をもって、黙々と作業を行い、とくに外周の清掃では、地域の方々と協力してゴミを拾い、雑草を抜き、落ち葉を集め、見違えるようにきれいになりました。



ブラックジャックセミナー 開催のご報告

2025年7月26日（土）に群馬県立がんセンターにおいて、ジョンソン・エンド・ジョンソン（株）との共催で、「将来の医師等を育てる」ことを目的に、高校生を対象とした「ブラック・ジャックセミナー」を開催致しました。今回のセミナーには先着順に群馬県内外から20名の高校生の参加があり大変盛況なセミナーとなりました。

セミナーの内容は開始前のオリエンテーションとして柳田院長の挨拶、尾嶋副院長の外科医の仕事紹介などが行われ、その後は各グループに分かれての実習が行われました。実際の手術器具を用いた結紮や縫合の基本的な技術の体験だけではなく、実際に医師が練習にも使用する腹腔鏡手術の練習機器を用いた実習や超音波凝固切開装置や自動縫合器といった特殊な道具を使用した実習などが行われました。高校生達の素直で真っ直ぐな眼差しに教える医師の熱意ある指導が、セミナー全体に良い緊張感を与え大変活気のある実習となりました。



終了後のアンケートでは、参加の全員からセミナー満足度での高評価を頂き、医師を目指したいとの多くの意見を頂きました。セミナーを通じて外科医の仕事の一端を体験してもらうことで多くの高校生に興味を持ってもらい、さらには将来の職業として医師を希望してくれることを心より願っております。

新任医師紹介



放射線治療科
技師 澤田 月杜

このたび、群馬県立がんセンター放射線治療科に着任いたしました澤田月杜と申します。出身は東京都で、桐蔭学園高等学校を卒業後、杏林大学医学部にて医学を学びました。卒業後は群馬大学放射線治療科に所属し、放射線治療について研鑽を積んでまいりました。放射線治療は、がん医療において根治を目指す治療から症状緩和まで幅広く対応できる重要な分野です。患者さんにとって最も適切で安心できる治療を提供できるよう努め、地域の皆さまに信頼される医療を心がけてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。